



1985年3月23日

No. 28



特集：総科カレンダー

# 目 次

1. とどまることを知るな	総合科学部長	岡本 哲彦	1
2. 飛翔紹介 誰が『飛翔』を創るのか	編集部		2
3. 特集 総科カレンダー	編集部		
“ふれあい”の総合科学部	学生生活委員会委員	川邊 信雄	4
総科カレンダー春夏秋冬	編集部		5
春の行事～オリエンテーションキャンプ～			
Let the good times roll	環境科学コース2年	中谷 健二	9
夏休み			
逆光線—僕らにとっての夏休み	比較文化研究講座助手	天野 雅郎	10
夏の行事 ～大学祭・ソフトボール大会～			
「ホットサンドいかがですかぁー」	59年度生	山田 充一	11
嗚呼！ソフトボール	厚生補導係	田中 究	11
授業紹介			
「行動科学基礎実験」って何ですか？	情報行動科学コース2年	村川 忍	12
「日本地域研究実習」紹介	編集部		13
就職委員会だより	就職委員会委員長	大内 侃	14
特別研究—卒論について	編集部		16
セミナー紹介			
「それらしい雰囲気」を味わうために	編集部		18
4年生は語る			
マスコミ十番勝負	社会文化コース4年	桐木 淳二	19
公務員志望の君達へ	社会文化コース4年	松本 秀一	20
卒業、そして進学	環境科学コース4年	吉田 道生	20
卒論のあとに	地域文化コース4年	近藤 龍二	21
数字のでない数学	環境科学コース4年	上村 美雪	22
4. 新設 生物圏科学研究科	編集部		24
5. シリーズ「数字」その4	編集部		25
6. 退官インタビュー	編集部		26
7. 特別研究論文題目紹介			29
8. 学部の記録			34

# 1. とどまることを知るな

新入生諸君へ

総合科学部長 岡本 哲彦



今、春の訪れとともに、希望と青春の情熱をもって「人生の華」とも言われている大学の生活を始めようとしている諸君に、心からおめでとうと言いたい。諸君を迎えるにあたり、諸君の入学した総合科学部が創立して10年を経過しており、その10年をふり返り新たな飛躍の糧とし、諸君と一緒にこの総合科学部を育てて行きたいと思う。

10年前、145名の教官と未知のものへ自分を賭けてみようと決意した120名の新入生による総合科学部の出発は、不安と期待のいりまじった緊張そのものであったと言える。その間に多数の教官の採用、研究体制の再編成などに忙殺されていた状況は覚悟の上だと言うものの、誠に苦しい日々であった。今では218名の大きな教官団により編成されるまでに至った。研究水準が高ただけでなく、学際的な研究に意欲を持たれた研究者を集めることは並大抵のことではなかった。それでも、教官の方々の努力の甲斐あって多彩な、しかも異色ある教官を迎えることに一応成功することができた。

しかし、質・量ともに一新したとは言え、これらの教官が研究集団としてどのように有機的な研究グループを作っていくか、本当の課題はここにあった。これこそ、総合科学部が良い教育機関となるための基本要件であると私は考えている。この点では、創設10年を経過したと言っても、今なお依然として

私達は苦しみの中にある。我々教官団は諸君と一緒にこの苦しみを乗り越える事を願っている。諸君の入学後の学部の4年間または大学院の5年間の研究がそれを形作るものである。考えてみれば、総合科学部は創立の時から常に自分の存在理由を問い直すことを宿命としている学部ではないかと思う。

私達は学部創設にあたり、一つの目標として学際的研究と総合化を掲げた。学問の進歩と社会の変化が提起する問題によってこれはどんどん変わって来る。我々が意欲的に研究に取り組んだとして、その時点で最も実情にあった研究チームや学生のためのコース編成が果して10年後、20年後に適用するかどうか、すぐれた研究や良い教育が行なわれている程、その矛盾は強く感じ変更が必要とならざるを得ないこともある。こういう矛盾と闘いながら、総合科学部は絶えず自分の存在理由を発見しなおしていかなければならない。矛盾や問題が山積する程また新しい困難に出会う程、学部としては活力に満ちているという宿命を背負った学部である。

以上の様に、教官・学生が一致団結して今我が学部は他学部とはひと味ちがった個性のある学生や、思いがけない発想法や、一風変わった質問を気楽な感じでぶっつけてくる学生など、かつてのイメージから僅かずつではあるが変わり、そうした学生が良い意味で育って来ていると私は思う。

新入生の諸君、総合科学部は上述の如くとどまることを知らない学部である。私達は60年度には自然系の大学院博士課程を発足させることができ、10年来の希望をやっとかなえる事ができた。来年度は続いて文・社会系の大学院博士課程を創ることに努力している。我々の希望は無限に広がっている。諸君には大きな希望を持って努力して欲しい。

## 2. 誰が『飛翔』を創るのか

～『飛翔』委員は叫び、呟く～

### 編集 部

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。  
ここに『飛翔』No.28をお届けします。

『飛翔』は総合科学部の学部報で、教官と学生からなる編集委員会によって編集されています。

私たち編集委員会が『飛翔』を編集する理由は三つあります。まず第一に、総合科学部についての様々な記事を“伝達する”ためです。今日の世界状況について普段余り考えることのない人でも、新聞を開いてアフリカの飢餓について知れば、ささやかながら手をさしのべたいと思ったりします。もちろん頭をかすめるだけの記事も多いわけですが、知らないところからは何も生まれません。従って、『飛翔』はある特定の信条に基づいて編集されているわけでも、読者を啓蒙しようという考えを持っているわけでもありません。むしろ、読者の皆さんが、私たちの最も身近な社会である総合科学部を少しでも良くしていこうと考えるための契機づけ、ないしはその際のデータバンクであるべきだと思っています。第二には、学部内のコミュニケーションを図る、ということことです。総合科学部は学生だけで五百名以上を抱え、名目上は一学科であるにもかかわらず、コース間にかなり深い溝があることは否めません。実際、3・4年生になると、コースや群が異なる人のことはほとんどわからなくなるのが現状で、教官間、教官・学生間になるとなおさらです。このような“隣は何をする人ぞ”的な無関心の壁を破り、コミュニケーションをスムーズに行う媒介として『飛翔』は存在します。第三に、生まれたばかりの総合科学という学問を、教官や学生がどのように守り育ててきたかという軌跡を記録として書き留めておくという役割があります。『飛翔』は、学部の記録として、教官の新任・退任・海外出張、学生の卒論のテーマ

等を記載していますが、その他の特集やアンケート等も、その時々総合科学部の一面を覗かせてくれる貴重なデータになると思います。

このような『飛翔』の性質から見ておわかりの様に、『飛翔』は編集委員が“創る”ものではありません。学部内の様々な立場からの意見や研究を発表し投げかけていくための場を提供し、いわば交通整理をするのが編集委員の役割なのです。ジャンルを問わず、皆さんの投稿及び、こんな企画を取上げて欲しい等のご意見をお待ちしています。

さて、現在、『飛翔』編集委員会の実働メンバーは58年度生4人と59年度生若干名だけという状況です。入学早々のガイダンスの時委員に指名され、“指名された以上は委員にならねばならない”“委員になった以上は出来るだけのことはしなければならぬ”というわけで深い理由もなく仕事を続けてきた律義な人間たちなのですが、いかんせんこの人数では行動力に欠ける上、このままでは編集委員会の存続さえ危うくなってしまいます。もちろん学生側の委員がいなくなっても、教官サイドで『飛翔』は編集され続けるでしょう。しかし、それでは教官と学生間のコミュニケーションを図るという目的は有名無実なものになってしまいます。人間関係が大きくモノをいう仕事ですから、“コノヤロウ!”と激怒してしまうこともあります。その分、同じ様に人と人の触れ合いから得るものも大きい仕事です。入学後のガイダンスで委員に指名された人だけでなく、興味のある人は是非参加して欲しいと思います。

連絡はプレハブの情報行動学生研究室まで。特にイラストの描ける方、大歓迎です。

(文責 向山敦子)



(短形画 至福院様木火)

全図 本千紙鶴の正装の出来一。中、六のさきま

### 3. 特集 総科カレンダー

編集部

#### “ふれあい”の総合科学部

学生生活委員会委員 川 邊 信 雄

冬休みも近い日の昼休みのことであった。総合科学部の前から、一世風靡セピアの曲に合わせて、「ソイヤッ、ソイヤッ」というかけ声が聞こえる。何事かと近づいてみると10人ほどの男子学生が一世風靡と同じような格好で、ラジカセのテープに合わせてダンスを踊っているのだ。なかには若干テンポのずれる者もいたが、かなりの練習を積んでいるらしく、なかなかうまい。ダンスが終わると、観衆がヤンヤのかけ声である。

大学がレジャー・ランド化したといわれて久しいが、とうとうここまでできたのかと思った。良いことなのか悪いことなのかは分からないが、こうしたものが大学生活の一部になりつつあることは間違いない。大学生活も、授業やクラブばかりではなく、アルバイトや遊びやいろいろなものがあり、多様化・複雑化してきている。こうした傾向の中で、自己の学生生活を見失うものも多い。

しかし、他の学部と比較して、総合科学部が誇れる大きな特徴は、学部を構成している学生、教官、事務官が共に接触し、連帯感を持っていることであり、まさに“ふれあいの学部”と呼ぶにふさわしい。こうした学部での学生生活は楽しいものであろう。こうしたふれあいは、ほとんど一年中を通じて行なわれる一連の行事から生まれてくるものと思われる。

たとえば、入学後は宮島で行なう全学のオリエンテーション・キャンプの他に、学部としての西条の研修所で土・日かけて行なうオリエンテーションがある。ここでは、学部長の挨拶に続いて、どなたか先生を招いて興味深い話を伺い、まず大学生らしく知的欲求を充たす。初日の夜は、文系・理系に分かれて、総合科学部の各コース、講座の特色などを聞く。翌日の午前中には、チューター別に分かれ、さらに詳しく学部のこと、学生生活のことについて聞き、大学生活の不安を解消することができる。この間、新しい仲間や教官と一緒に風呂に入ったり、食事をするふれあいの機会も多い。

また、ふれあいの機会として重要なのが、ソフトボール大会であろう。西条のオリエンテーションでも、二日目は球技大会と称してソフトボールを行なう。もちろん、チューターの先生も参加する。西条

のオリエンテーションでは、一年生だけがソフトボールを行なうが、その後すぐに春季学部長杯争奪ソフトボール大会がある。学生間の親睦は深められる。これには、大学院生を含め学生しか参加しないが、秋にも同じように、学部長杯争奪ソフトボール大会がある。これには、事務官が1チーム、教官が理系、文系各1チームを出す。事務官チームは常に優勝候補の実力を持ち、教官チームも大体2回戦3回戦へと進みベスト8入りの実力を持つ。個人的にみても、ホームランを飛ばす教官も多いのだ。オジンなどとあなどってはいけない。もちろん、こうした行事の後には打ち上げがあり、もっぱら、コミュニケーションがはかられる。普通はこれだけで済むはずがなく、2次会、3次会へと流れる。

さらに、春と秋には“文化バス”と称して、希望者によるバス旅行がある。行き先は、倉敷だとか秋芳洞といったところである。費用はまったく名目的なものなので、賢明な学生は仲良しグループやチューター・グループでこれに参加し、見聞を広めているようだ。

こうした行事では、教官も事務官も学生とともに一生懸命楽しむ。授業中大人しい学生が元気を発揮したり、普段にがむしをつぶしたような顔をしている教官が以外と子供っぽかったりして、お互いの知られざる一面をかいま間見することもある。いうまでもなく、学生同志の絆はいっそう強まるようだ。

ところが、残念なことに、最近の学生の間では知的な会話や学問的な議論を避けたがる風潮がみられる。各種行事の時には、学生と教官のお互いのコミュニケーションがはかられ、学生も活発に行動するが、授業や研究のことになると大人しくなり、控え目になりがちである。授業中にも質問を差し控えたり、質問その他で教官室に出入りするのを遠慮する学生もいるようだ。

各種の行事によってせっかく生みだされた学生、教官、事務官の間のふれあいを、研究や学問の場でも育成し、お互いの自由なコミュニケーションや発想を通して、総合科学部の知的雰囲気が高めることができれば、どんなに素晴らしいことであろうか。

(英米研究講座 助教授)

新たなスタート。よし、  
がんばるぞ!!  
米印のものは本文  
において紹介。

〔4月〕

・入学式

今日から君も大学生。身も心も  
フレッシュ。誰だノありがたい  
お話も聞かず、女の子ばかり見  
ているのは？

・教職ガイダンス(2年生)

教員免許取得の指針。取り  
たい人は必ず受けましょう。

・奨学金・授業料免除受付

申し込み方、その他わからないことがあつた  
ら、厚生補導係に聞きに行こう。

＊オリエンテーションキャンプ(1年生)

4月最大のイベント。この2日間は思いっきり楽  
しよう。そして、この機会に友達をたくさん作っ  
ちゃおう。ついでに彼、彼女も?他学部の人とも  
知り合えます。いざ、宮島へ!

〔5月〕

・新歓コンパ

いやでも覚える安芸の国。飲んで、  
歌って、つぶれて…。2年生中心に  
1年生をあたたかく歓迎します。

・学部長杯争奪春季ソフトボール大会

やって来ましたソフトボール大会。総科と言えば  
ソフトボール、ソフトボールと言えば、打ち上げ  
のハードさ。盛り上がります。盛り上げます。こ  
の時ばかりは上級生、下級生の区別はなくなり、  
勝利に目が血走るとか。

・5月病

受験後の壁がこれ。友人をたくさん作って  
のりこえましょう。自分一人で悩まないこ  
とです。学生相談室もあります。

# 春



Where?

・コース決定(2年生)  
ついに3年間学ぶコースが  
決定します。当人には大切  
な問題だけど、定員がある  
ので……。

・前期聴講受付(第1~2週)

大学では自分で時間割りを作ります。えっ、よくわからない?  
大丈夫ですよ。優しい先輩方にまかせなさい。なんでも聞いて  
下さい。アドバイスしましょう。特に注意すべきことは、自分  
の時間割りを期日までに学務第一係に提出すること。



・西条研修(1年生)

西条研修センターにおいて1泊2日の合宿。  
この間、先生と一緒に語り合ったり、チュ  
ーターグループ対抗でソフトボールをしたり、  
学部内での親睦を深めます。ちなみに西条は  
いなかです。

・文化バス(一般教育特別企画)

一般教育の生徒対象だけど、観  
光したい人、寄っといで。倉敷、帝  
釈峽、さて今年はどこへ行くのか  
な。詳しくは厚生補導係まで。

なんて暑いんだ。白い雲、  
青い空なんて大嫌いだー。  
夏バテなどせぬように…。

# 夏



Which ?

〔6月〕

### ・家庭教師ガイダンス

家庭教師の斡旋を大学で受けたい人は必ず受けましょう。5月下旬にあるかもしれないので厚生課横の掲示板に注意しておこう。

### ・コースガイダンス(1年生)

第1回1年生コース希望調査。この段階では、まだ決まってない人がたくさんいるはず。あせらず、じっくり考えよう。

### ・総科創立記念日

(6月7日)

はや11年。もうそんなにたつのですねー、総科が産声をあげてから。でも、残念ながら、この日は休みじゃありません、あしからず。



### ・教育実習(4年生)

教わるものから教える者へ。この変化がもたらすものは何か。総科生は広大附属福山中学・高校で行ないます。おーっと、これは過激な2週間だ。

### ・6月祭

学部、同好会、部などの有志が森戸道路、南グランドその他教室、会館などで店出し。映画、音楽など梅雨を吹き飛ばすにぎやかさ。仲間が集まれば、君も店出しをしてみよう。数週間前から、チケット販売攻勢があるのでサイフのひもをしめておかないと…。

〔7月〕

### 〔8月〕 \*夏休み

なんととっても夏休み。

7月11日から休みになります。

この時とばかり、海へ山へ出かける人も。バイト、クラブ、何か打ち込むことをみつけて、楽しい休みにしよう。うっかりレポートを忘れるようなことをしないように……。



### \*公務員試験

就職試験第1弾。入学試験以来の試験では？

合格してほしいですね。ファイトー発!!

読書の秋。スポーツの秋。  
就職活動最前線。でも、何  
と言っても食欲の秋かな。

〔9月〕

・前期試験

この時ばかりはさすがに皆さん  
勉学に動しむようです。1年生  
は不安でしょう。実は上級生も  
不安なのです。なぜかこの時期、  
コピー機には長蛇の列が…。  
日頃の勉強がものを言うのです。

〔10月〕 ＊就職活動解禁（1日）

4年生諸先輩はりきっていきましょう。

・秋休み（10月1日～14日）

別名・試験休み。試験疲れをいやすようにとの大学の  
配慮、ありがとうございます。嬉しいですね。だから  
大学生はやめられない。大学生って本当にいいですね。

・成績発表

やって来ました。A、B、C、D、E気  
持じゃない。Dと米はなるべくなら取り  
たくないですね。まあ、Dをとって青ざ  
めているうちが花、何も感じなくなった  
らおわりですよ。これをバネに後期はが  
んばろう。

〔11月〕 ・大学創立記念日（11月5日） 休日です。

＊大学祭

大学最大の行事。この3日間は学内はお祭り騒ぎ。  
自ら参加して、大学祭を盛り上げよう。6月祭での  
反省点をいかして、この11月祭に臨むのは当然のこと  
と、新たな飛躍をなしとげよう。

・式部杯テニス大会

テニスで教官とコミュニケーションを  
深めようではありませんか。

＊秋季ソフトボール大会

またまたソフトボールの季節。今回は事務官、教官、学生  
三つどもえの争い。さすがに事務チームは強い。しかし、  
春の雪辱に燃える我々は必ず勝ってみせるぜ。

# 秋

・大学院入試

今年から、環境科学研究  
科から、生物圏科学研究  
科に変わります。特集記  
事も読んで下さい。



## What?

・後期聴講受付

後期はなぜか5コマめに授業のある人  
が続出(?)、単位の計算や成績表を見  
比べたりして、パズルをしているみた  
い。それにしても、冬の1コマにめに  
体育があるというのはキツイですね。



・コースガイダンス（1年生）

そろそろ希望コースもみんな確定して  
きたころでしょう。ガイダンスを聞いて、しっかりと決心してしまおう。コ  
ースによっては定員が気になる今日こ  
の頃。

・文化バス

秋の文化バス企画。春とちがっ  
たムードで迫ります。自由参加  
なのでどんどん参加しよう。

厳しい冬がやって来た。雪  
やコンコン。ゴホン、ゴホ  
ン。風邪にはご注意を

# 冬



〔12月〕

## ・フェニックス駅伝

健脚を披露する8人の地獄絵巻。  
総科からも数々のチームが参加  
します。果たして、学部長杯を  
獲得するのはどのチームだ!?

## ・冬休み

正月ぐらいは実家に帰って、  
ゆっくり休みましょう。コタ  
ツに入ってみかんを食べる。  
なんて、僕はハッピーなんだ  
ろう。

〔1月〕

## ・共通一次

今年から日程が繰り下げ  
られましたね。大学生は  
問題をみて、自分の学力  
の低下を嘆く日といわれ  
ています。でも、この2  
日間、大学には入れず  
休暇となります。

## ・コースガイダンス(1年生)

最後のガイダンス。これを  
聞いてから、最終のコース  
希望を提出します。



# Why?

## ＊卒業締め切り

すべり込みセーフ!! 4年生はみ  
んなこの時期いらいらしてい  
る。なるべく早めに準備して  
おくのがいいようですが、なか  
なかそうもいかないようです。  
締め切りは地域文化コース

1月20日

その他のコース

1月31日

となっています。

〔2月〕

## ・後期試験

今年度もこれでおしまい。  
前期の失敗を繰り返さぬよ  
うにがんばろう。ちなみに  
成績発表は4月です。

## ・卒業生祝賀パーティ

卒業生をみんなでお祝いしよう。3年生  
以下の学生が中心になって行きます。こ  
の時期、コンパが続いて財政困難にな  
ると思うけど、バイトでもして乗り切ろう。  
2次会からは卒業生が……。

## ・大学院試験

地域研究科の入学試験がありま  
す。2月下旬ころになると思  
います。

〔3月〕

## ・卒業式

大学生生活の思い出は重いで～。なんてついに  
大学を離れる日が来ました。お兄さま、お姉  
さま(?)おめでとございます。たまには大  
学へ顔を出して下さい。それでは、さよなら、  
さよなら、さよなら。

## ・春休み

来季にむけての充電期間。次の学年  
の計画をたてるのもいいでしょう。  
それには、自主トレをかかさず、キ  
ャンプ・インせねば……。

## Let the good times roll

環境科学コース2年 中谷 健二

新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんは、この広大に夢と希望をもって入ってきたのであろう。しかしその半面、全く見知らぬ所でどうやってみななとうまくやっていこうかと頭を悩ませている人も多いかと思う。

そういう人達のために、いろいろな新入生歓迎行事がある。オリエンテーションキャンプ（以下オリキャン）もその1つである。オリキャンとは、新入生を一堂に宮島に集め、上級生や教職員の人達と一緒にキャンプをやっちゃおうというものだ。主な日程として、学部単位で行なわれる学部別行事、全員をフィールドに集めて行なわれるキャンプファイヤー、その後班単位で行なわれるミニファイヤーetc.がある。オリキャンは今年で13回目を数える。最初は、毎年4月、5月に新入生の自殺者が多く、これをなんとか減らそうとして始められたものらしい。今では参加者も1,800人近くに増え、質・量とも全国に誇れるものとなっている。

新入生はまず、学部別に10人位のグループにわかかれ、それにフェローという在校生と、教職員がそれぞれ1~2名つく。（おお～っと、そうだ、今日はフェローについて何か書かなければいけなかったんだ。今思い出した。）このフェローとは、新入生のみんなが困らないようにキャンピング技術から、大学生活の送り方、授業の取り方、学部の特徴...等を教えてくれる非常に有難い存在なのだ。それじゃあ、ここで少しフェローの苦労話でも書いてみようか。

フェローは、11月頃から募集される。そんな前から、と思う人もいるかも知れない。しかし、オリキャンが、2,000名近い人数で行なわれている今、オリキャンはフェローが動かしているといってもいい。役員がいくら頑張ってみても、あの人数では統率はとれない。フェローがいつでも何をやるかをたたきこんで初めてうまくいくわけだ。オリキャンの成功はフェローにかかっているのだ。

まずフェローはいくつかの班にわかれる。各班にはFF（フェローのフェローみたいなもの）という人がついて、2月までに5回位フェロー講習会とい

うものがある。ここでフェローについての心構えとか、オリキャンの問題点等...について討論し合う。そして、実践の意味で3月にフェロー合宿、4月にリハーサルキャンプというものがあるのだ。（いずれも打ちあげつき。）

さて、ここまでくればもうみんな一人前のフェロー。あとはオリキャンを待つばかりである。顔合わせの時からオリキャンは始まる。そこから本番までの間に自分の班をいかにうまくまとめ、うちとけさせるかが重要になる。それがうまくできればもうオリキャンは半分成功したようなものだ。

献立も決め、班装備も決め、いよいよ当日。テントもなんとか設営して学部別行事になった。昨年のオリキャンでは、我が総科では「アホの総科」というのを生かして、貝掘り大会をすることになっていた。しかし、掘っても掘っても貝は出ない。リハキャンの時はちゃんと出たのに、出ないのだ。これにはまいってしまった。でも新入生は、出ないなりに一生懸命掘っていたみたいだったけど。

オリキャンで一番やってみたかったのは何といってもミニファイヤーである。大学生として一年暮らしてきて何を、何に後悔しているか、そして大学時代に何をすればいいかという事を、自分なりに考え、それを一年のみんなに伝えたかった。それが正しいなんてことは誰にも言えない。うまく伝わったかどうかはわからない。しかし、「何か」は伝わったと確信している。ミニファイヤーが終わった時には、やったという気持ちだった。同じフェローのKと握手したのを今でも憶えている。

フェローをやって一番感激してしまったのは、帰りのフェリーから降りて解散する時に、みんなから胴上げをされてしまった時だった。その日の打ち上げの酒はまた格別のものだった。

オリキャンが自分にとって一体何だったのか、今思い出してみてもよくわからない。ただ、あの時は金も使ったけどそれ以上のものも得たような気がする。後輩のために、というよりもむしろ自分にとっていい経験だったと思えてならない。

## 逆光線 - 僕らにとっての夏休み -

地域文化コース比較文化研究講座助手 天野 雅郎

夏休みには、いつも決まって裏と表とがある。夏休みが来たからといって、決して僕らは夏に休もうなどと思っていたわけではない。どんな夏にも、夏に休むなどということは、どだい無理な注文なのだ。僕らは夏に遊ぶだろう。僕らは夏に戯れるだろう。しかし、それでいて気がつく、いつも何故か、どことなく夏を休んでしまったという思いが残るからこそ、夏休みは僕らにとって重く苦い、裏腹な季節となってしまうのだ。

ひょっとすると夏休みは、僕らにとって楽園のような場所だったのかもしれない。しかし楽園には、いつも決って狡猾顔の蛇がいる。溢れでる日々のときめきは、押しつけがましい日記帳のページに塗りつぶされ、緩やかな日々のまどろみは、夏休みの敵ならぬ「夏休みの友」に揺りおこされる。偽善者になりたいのか犯罪者になりたいのかと、不意に問われてはみても、反省の余地も選択の余地もあったものではない。定期検診まがいの出校日が新興宗教さながらの怪しげな終末の呪文を唱え出すと、もうそこには紺色や鼠色の既製服をたずさえた、秋の獄舎の番人たちが待ちかまえている。誰が仕かけたともしれない嫉妬深い下剤の断続的な効果で、もうすっかり栄養失調となってしまった僕らにとって、夏の重さと夏の苦さまで織り上げられた囚人服ははたして支えきることのできるものなのだろうか。

そんなことを考えていると、思春期から思秋期へと一足とびに夏を飛び越えている僕らに気がつく。夏を思い夏を知る時には、もう夏は僕らの背中で小さく小さく手を振っていることだろう。去る者は日に疎し。たちまちにして僕らは、夏を支えることよりも遙かにたやすい、夏を忘れることの方を選び択るかもしれない。ピーターパンであろうとシンデレラであろうと、ひとたび夏を忘れてさえしまえば、

もう冬を忘れることなども朝飯前だ。無難であれ、常識的であれと顔をしかめる牢番たちの前で、せせと微々たる冬支度を調べやがて来たるべき春の幻影に思いを潜めるかもしれない。しかし、そのときに僕らは、もう春も夏も秋も、二度と僕らには巡ってきはないのだということすら、きれいさっぱりと忘れてしまっているのだ。

僕らは植物ではない。わかりきったことだ。もし植物になれるとでも思うのなら、冬を忘れてしまわないうちに、一人で冬の空の下に行んで見るといい。一人で冬の風の中を吹かれてみるといい。その冬の空の下に立ちつくしても、それでも流れゆく雲のゆくえを追い続ける、そんなひたすらな冬の木立になれるというのか。その冬の風の中に吹きさらされても、それでも過ぎゆく季節の限りを生き続ける、そんないさぎよい冬の木立になれるというのか。僕らに何があるというのだろうか。僕らに何がなせるというのだろうか。

今、冬の空は逆光線だ。夏の空の青い青さが僕らをかすめすぎてゆく。暑かった夏の光も眩しかった夏の風も、すべてが影絵のようだ。冬枯れの木立に、そっと手を押しあててみる。決して夏に休もうとも、決して夏を休もうとも思わなかった僕らに、今、冬の空の逆光線は何を許し与えてくれるのだろうか。僕らは僕らの夏に問いかける。夏よ。夏よ。夏よ。僕らの凍てついた背中が見えてくるならば、それはそれでいい。僕らの流れてゆく音が聞こえてくるならば、それはそれでいい。しかし、この冬枯れの木立に押しあてた僕らの手のひらに、かじかみながら伝わってくる何かを、僕らは決して離しはしないだろう。それは、樹皮の奥からだろうか、僕らの底からだろうか、まぢがいなく熱いのだ。まるで、あの夏休みのように。

## 「ホットサンドいかがですかぁー」

59年度生 山田 充

「ホットサンドいかがですかぁ。」思い思いの色の総科トレーナーに身を包んだ総科59生の声が響く。Hot Sandと焼きおにぎりの看板、色とりどりのモール、紅白の垂幕……。昨年11月3日、4日の光景である。

我々が11月祭に向けて動き始めたのは、前期試験期間の半ば頃であったろうか。我々は6月祭で団子とわらび餅を売り、好評を博していたが、11月祭ではホットサンドを作ることに決定した。再度団子を作ったり、どこにでもあるたこ焼きや焼き鳥を売ることは総科生としてのプライドが許さなかったのである。10月6日、風間氏、妹尾氏、みちるの3名は溝上氏宅を訪問し、ホットサンドの試食会を行った。秋休みが明けてバザースタッフを募集。20名の人間が集まった。今回は総科トレーナーを作ることに福居氏、風間氏を中心に作業を進めた。10月22日、恒例の暇人調査。集計には妹尾氏のPC-8001を起用。23日、ホットサンド、焼きおにぎりの種類と価格の決定。24日頃からトレーナーの注文を取り、PC-8001で集計。25日、チケット印刷。26日頃からチケット販売開始。

会計には森川氏のポケコン使用。27日、ローテーションの発表。依頼書の配布。28日、妹尾氏宅でホットサンド調理講習会。保温方法などの検討。29日、生産ラインの設定。コンロやサンドイッチメーカーなどの物品調達や看板作りなどの内装にかかる。11月1日、トレーナー完成、配布。2日、大そうじ。材料の買い出しでスーパーや市場へ。材料の下ごしらえなどを女の子に依頼。看板などの仕上げ。11月3日、大学祭当日。朝、溝上氏がパンの買い出し。テントや物品の貸し出しを受けて、店の準備。予定よりやや遅れて開店。店と研究室の間は桜井氏の無線機で連絡を取った。

今回は6月祭に比べて分業制が進んでいたが、みんなが各部所でそれぞれの個性を発揮し、夢中になっている姿は実に頼もしいものであったし、総科生の凄まじいエネルギーのようなものが感じられた。徹夜も辞さないくらいに取組んだ大学祭。あとき僕らは、少なくとも僕は何かを見つけ、この手にすることができたような気がしていた。

あれからもうすぐ3ヶ月...である。

## 嗚呼!! ソフトボール

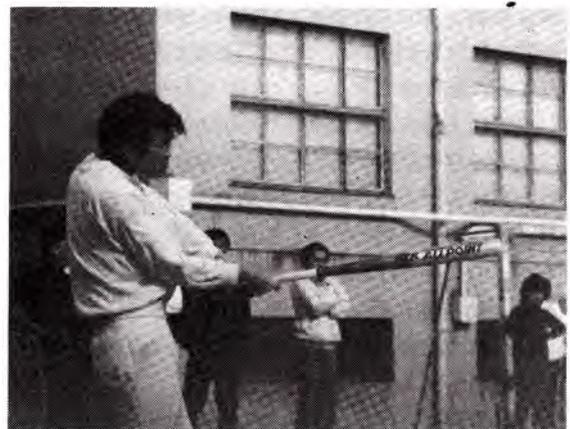
厚生補導係 田中 究

昭和59年度総合科学部長杯争奪ソフトボール大会は過去最多の23チームが参加して、11月23日に行なわれた。

しかし、参加チームが多かった割にいまひとつ盛り上がり欠けたように感じたのは何故だろうか。まず感じるのは毎年参加するメンバーがほとんど同じで、ゲームに出ない人は応援にも出てこないということ。せっかくの全学部的行事なのだから、もっともっとたくさんの人にやる方見る方も集まってほしいと思う。他人がやっているのをただ見るのもおもしろくはないだろうし、ソフトボールは苦手という人もいるだろうが、そこは「恥も外聞も忘れて動く」の総科精神でやろうじゃないの。我々の目から見て総合科学部生は他学部と比べて縦横のつながりは強いと思う。それをさらに強める意味でもこういった機会を大いに利用して欲しい。あの人は普段

はほとんど目立たないけどソフトボールはうまいんだとか、総科にあんな人もいたのかとか、いろいろ新しい発見もできるのでは？

さて実際に試合をやって感じたこと。年々学生が



おとなしくなってきたように思う。それだけまじめ学生がふえてきたのか、消極的な学生がふえてきたのか。目立ちたがりあまりいなくなったような気がする。ユニホームだけで勝負する者、チームの勝敗よりも自分をアピールすることのみを目指す者、試合よりも懇親会にすべてを賭ける者、こういった人がもっともっているのが総科じゃないだろうかと思う。

## 授業紹介

# 「行動科学基礎実験」って何ですか？

何だかよく判らないままに引き受けてしまったが、情報行動科学コースⅢ群の必修科目である行動科学基礎実験について書け、ということらしい。

一言でいって、行動科学基礎実験とは、行動科学を専攻する学生に、行動科学の中の色々な分野の基礎的な実験を演習させることによって、研究者としての基本的な素養を身につけさせることを目的とした授業である。と一言でいってしまうと後が続かない。

それでは「行動科学」とは何でしょう。一介の学生である私がこのようなことを書くのははなはだ面映ゆいのだが、それは、“客観的”に観察可能な人間行動（あるいは動物行動）のみを研究対象として、その科学的（＝数理的）解析を主として人間行動を説明し、最終的にはそれを望ましい方向に制御しようという目的を持った、心理学における一つの学問的立場である。といっても何が何だか判らないかもしれないが、まあそういうようなものである。

要するに行動科学とは非常に科学主義的な心理学だ、と言うことが出来る。そして科学といえば実験、実験と言えば科学というくらいのもので、行動科学の主な研究手段は当然のことながら実験、ということになるのである。

授業は土曜日の午前9時30分から始まる。たいいていの場合、授業では実験のオリエンテーションが行なわれるだけで、実際の実験は空きコマをぬって行なわれる。当然のこと、脳波・心電図の計測や、ネズミの条件づけといった実験室における実験もあるが、幼稚園に行って幼児の行動観察をしたり、「流行歌の社会心理学的分析」といったわけの判らないものもある。

情報Ⅲ群は、何だか知らないがやたらにいそがし

決勝戦に応援の少なかったのも残念なことだった。

（そのおかげで事務は負けた？）

懇親会の盛り上がりのなさには驚いた。約2名芸をしたのがひどく浮き上がって見えたのは少々かわいそうだった。

私だけがそう感じたのかも知れないが、次回をもっともっと試合も懇親会も皆でバカになって大いに楽しみ、我々教職員も楽しませて欲しいと思う。

## 情報行動科学コース 村川 忍

い、ということになっている。基礎実験は特にその元凶のように言われることが多いのだが、どうなのかな。よそのことは知らないが、どこもそれなりにいそがしいのではないだろうか。ただ空きコマや昼休みなどの時間をとられるので精神衛生上良くないということはあるかもしれない。

しかしこんな原稿でいいのかな。あまり気にしないことにしよう。

まあ今時「心理学者は人の心が読める」とか「心理学は人間心理の深奥に光をあてる学問だ」とか思っている人は...いるのだろうか、心理学者は天才でも超能力者でも神様でもなく只の人間なので、そんなことは出来ないのである。自宅の書斎で人間心理に思索をめぐらす、といったことは天才だけに許されることであって、我々凡人は何だか判らないままに、白衣などを着込んで実験でもする他に手はないのである。少なくとも行動科学はそう主張するのである。（本当かな。多分嘘だろうな。）

## 「日本地域研究実習」紹介

— 主観的体験から客観的事実へ —

### 編集部

総合科学部には長期休暇などを利用し、実際にフィールドに出て行う授業がいくつかある。環境科学コースの「環境科学野外調査A」もその一つであり、昨年の夏に行われた大山での実習については前号で触れられている。従って、今回は地域文化コースの「日本地域研究実習」をとりあげてみたい。

「日本地域研究実習」は日本研究講座の5・6セメスターに開講されており、村上誠先生を中心にすすめられている。この授業は、以前は「地域研究実習」の名称であったが、56年度から現在の形になった。授業内容について、先生は次のように述べられた。

「この授業は地域研究のための基礎としての実習ですから、やみくもに外へ出るというのではなく、主として前期は室内で基本的な技法なり関連する文献などを読んで知識を得て、そして後期にそれらを実際に適用してみようということです。前期でも日帰りフィールドに出てゆくことはありますが、泊まりがけでの実習は後期にやります。ただ後期といっても、他の授業との関係などから、現在は秋休みに3泊4日程度で行っています。その後は調査結果をまとめたり、比較対象地域を訪れてみるということをしています。この授業の参加者は日本研究の学生が主ですが、他講座・他学部の学生が加わることもあります。」

秋休みに行われた実習のフィールドは、過去3年間をみても、57年度は鳥取県の日野川流域、58年度は岡山県の高梁川流域、59年度は島根県の斐伊川流域であった。そして予め学生と相談の上で調査地を決めて、調査の対象や方法を検討・準備しフィールドに臨むわけであるが、59年度は「山陰における人々の生活」というテーマを設定し、斐伊川流域では人々の生活がどう展開されているかを調査目的としている。これらの実習結果は、報告書として毎年一冊にまとめられている。

この授業をすすめる際に、村上先生は次のようなことをずっと意識してこられたという。

「いろいろな文化をとらえていく時に、どれにでも共通基礎として役立つ知識なり技術はないものか。

多様な現象を前にして、それが何を指標にすれば説明できるのかということとをずっと模索してきました。ただ私の考えているものと、参加する全学生の期待しているものが一致しないことが多い点は反省させられますが、学生諸君も、直接的に何かに結びつかないと安心できないという短絡的、近視眼的な見方にならないでほしいと思います。」

55年度の実習報告書では、村上先生は「本実習は地域文化コースの多様な専攻学生が参加するために、地域研究の基礎的な分析手法を指導することを目指した。それは、それぞれの場に展開する人々の生活（広い意味の文化）をじかに触れて理解することであり、それを説明する方法を考えることである」と書かれている。

従って、授業の眼目は、活字や図になったものを今一度もとへ戻して自ら再構築を体験することに意義を求め、自己の体験した事をどう整理し説明するか、すなわち主観的体験をいかに客観的事実へと化してゆくか、その訓練の場の一つであると言えよう。

村上先生は最後に次のように要望された。「私達のみている学生は、1行の文、1枚の表や地図の背後に、どれだけの調査や分析の過程があったかを見落しがちであるし、また逆に、その結果を鵜呑みにする傾向があります。自分で考え、自分のものを創り出すための態度や方法を重視してほしいですね」と。

「事実があって法則がある」という言葉があるが、我々には極度の活字偏重主義や、原典とか原物にあらず評論の類をもって、よしとしがちな態度がある平面、安易な「現地主義」的態度が存在することも否定できない。時にこれらを顧み自省することは、もはや「地域研究」の枠にとどまらず、我々の実生活レベルでも必要なことではないだろうか。

(文責 古川哲史)

# 就職委員会だより

就職委員会委員長 大内 侃

昨年12月上旬の委員会で就職状況をまとめた。その結果は別表のとおりである。もっと具体的な資料を見たければ、各教官に配布してあるものを見るか、厚生補導係に相談すればよい。

まず、修得単位の不足で卒論に取り組めない留年学生が増加したのが目につく。これらの学生を除けば、就職状況は昨年よりやや良いといえる。しかし、学生の選んだ就職先の傾向は例年と大差ないようだ。コンピューター関連企業への就職が増えている。これらの企業を選ぶに際しては、その将来性を考える必要があることが指摘された。国家公務員の上級職に合格した者がいる。一年おき位に上級職合格者がでているようだが、これは好ましいことである。

理科系学生の場合、学部学生および大学院学生の就職は全く好調である。これは総合科学部の実体が多く企業の理解されているためであろう。卒業生のいる企業への就職なら、指導教官の推薦状があればまず大丈夫である。これは今までに多くの教官が学生諸君の希望を聞いて企業に働きかけてくださった成果であろう。学生を採用された企業を訪問してみると、広大出身者の一覧表をよく見せられる。そしていろいろな話を聞いていると、就職に関して本学部が広大の他学部と同等に扱われており、本学部のユニークさに大きな期待をよせていることが分った。

文科系学生の場合、企業が大学院生を採用しない(年齢制限のため)こともあって就職はなかなか調子よくゆかず苦勞しているようである。しかし、卒業生を受入れた企業は総合科学部のことはよく分かっ

ているはずだから、今までの実績を調べてみると就職に都合よい手がかりがあるかもしれない。厚生補導係にある資料を活用してほしい。

学生便覧にある「就職について」をよく読んでほしい。今回少し修正したが、大切なところを以下に述べよう。

1. 就職全般については、家族とよく相談し、指導教官や就職担当教官・事務官とも充分連絡をとって、その助言を受けることが望ましい。

まず、上の文章で「望ましい」とあるが、これは「.....しなければならぬ」という意味である。自分の進路は遅くとも夏休中には定めて指導教官などに知らせてほしい。企業の将来性についても注意せねばならないから、教官の助言を求めること。就職担当教官は今までのいろいろな経験から、会社面接に際しての初歩的マナーなど学生諸君に欠けている問題点をよく知っているので、5月上旬ごろから開く就職関係の集会には必ず出席してほしい。意外と集まりは悪いのである。

2. 公務員やマスコミを希望する学生は3年次頃より計画的な学習をすることが必要である。

本学部のカリキュラムは幅広く浅くなっているから、国家公務員の上級職に合格することは容易ではない。他学部の学生にとっても難しい試験であるから、この対策は教官に相談する必要がある。マスコミ希望者は多いので困るが、狭い門であり適性も必要といわれているから、教官に具体的に相談すること。

昭和59年度卒業生進路状況

(60.3.25現在)

区分	コース	地域文化	社会文化	情報行動	環境科学	計
卒業生数		(19) 35	(6) 28	(12) 32	(5) 24	(42) 119
進学		1	(2) 4	(1) 5	(1) 6	(4) 16
公務員		(3) 3	(1) 3	(1) 1	(1) 2	(6) 9
教員		(4) 6	0	(1) 3	2	(5) 11
企業		(11) 20	(2) 20	(8) 22	(3) 14	(24) 76
自営		3	0	0	0	3
無職		(1) 2	(1) 1	(1) 1	0	(3) 4

( )は女子で内数

## 就 職 内 定 企 業 名

(公務員・教員を除く)

地 域 文 化	社 会 文 化	情 報 行 動 科 学	環 境 科 学
タカキペーカリー	ハ ニ ー	ネ ッ ス ル	宇 部 興 産
キ ュ ー ピ ー	日 本 マ ク ド ナ ル ド	旭 化 成 工 業	島 津 製 作 所
光 和 建 設	鹿 島 建 設	三 原 菱 重 エ ン ジ ニ ア リ ン グ	沖 電 気 工 業
井 関 農 機	太 陽 酸 素	沖 電 気 工 業	日 本 アイ ・ ビ ー ・ エ ム
広島アルミニウム工業	太 陽 石 油	松 下 電 器 産 業	日 本 電 気
ク ハ ラ	東 海 瓦 斯	シ ャ ー プ	山 口 日 本 電 気
三 起 商 行	松 下 電 工	日 立 製 作 所	オ ッ ク ス フ ォ ー ド
メルコムビジネス	横 河 ヒ ュ ー レ ッ ト パ ッ カ ー ド	浜 松 ホ ト ニ ク ス	福 山 パ ー ル 紙 工
広島相互銀行	東 芝 情 報 機 器	山 口 日 本 電 気	大 和 證 券
アメリカンファミリー生命保険	明 治 屋	大 日 本 印 刷	四 国 日 本 電 気 ソ フ ト ウ ェ ア
ハイエレコン・コーワ	協 和 銀 行	中 国 日 本 電 気 ソ フ ト ウ ェ ア	富 士 通 エ フ ・ アイ ・ ビ ー
日本交通公社	日 興 證 券	九 州 日 本 電 気 ソ フ ト ウ ェ ア	住 金 シ ス テ ム 開 発
広 交 本 社	リ ク ル ー ト	富 士 通 シ ス テ ム エ ン ジ ニ ア リ ン グ	宝 塚 エ ン タ ー プ ラ イ ズ
アド・プランナー	第 一 廣 告 社	ク イ ッ ク プ ラ ン ニ ン グ	
大阪書籍	石 原 企 画	福 武 書 店	
福 武 書 店	九 州 朝 日 放 送	環 境 調 査 技 術 研 究 所	
日本放送協会	宝 塚 エ ン タ ー プ ラ イ ズ	菱 明 技 研	
日本電信電話公社	日 本 電 信 電 話 公 社		

(順不同)

## 就 職 内 定 公 務 員 ・ 教 員 名

地 域 文 化	社 会 文 化	情 報 行 動 科 学	環 境 科 学
(公務員)	(公務員)	(公務員)	(公務員)
広島市(上級)	愛 媛 県 (上 級)	国 家 公 務 員 (非 常 勤)	広 島 県 (上 級) 2
岡山市(上級)	京 都 市 (上 級)	(教 員)	(教 員)
新居浜市(上級)	国 家 公 務 員 (中 級)	広 島 県 (高 ・ 英)	広 島 県 (高 ・ 数) 2
(教 員)		大 阪 府 (中 ・ 理)	
広島県(高・英)		大 阪 府 (中 ・ 社)	
山口県(高・英)			
愛媛県(高・国)			
奈良県(高・社)			
広島県(中・国)			
高知県(中・国)			

## 大 学 院 修 了 予 定 者 就 職 内 定 先 調

<p style="text-align: center;">( 企 業 )</p> <p>中 国 電 力      カ シ オ 計 算 機</p> <p>戸 田 工 業      シ ャ ー プ</p> <p>花 王 石 鹼      松 下 電 器 産 業</p> <p>大 塚 製 薬      三 洋 電 機</p> <p>富 山 化 学 工 業      マ ッ ダ</p> <p>日 本 特 殊 農 業 製 造      国 土 防 災 技 術</p> <p>日 本 アイ ・ ビ ー ・ エ ム      新 日 本 気 象 海 洋</p> <p>沖 電 気 工 業      銀 河 計 画</p>	<p style="text-align: center;">( 公 務 員 )</p> <p>国 家 公 務 員 (上 級 ・ 砂 防 職)</p> <p>福 岡 市 (上 級)</p> <p style="text-align: center;">( 教 員 )</p> <p>福 山 大 学 薬 学 部 (助 手)</p> <p>広 島 市 (高 ・ 理) 3</p> <p>静 岡 女 子 短 大 (専 任 講 師)</p>
---	--

# 特別研究 — 卒論について —

## 編集部

### はじめに

特別研究（卒論）は総科生なら必ず取り組まねばならないものである。卒論については、各人各様の思いを抱いているであろうが、新入生や2年生にとっては具体的なイメージが湧きにくいものであり、その関心度に比べて情報量は少ないようである。ここでは、学生便欄に掲載されていない指導教官の決定方法や中間発表会、論文発表会、論文の保管などの面から主要な事項のいくつかを探ってみたが、巻末の「論文題目紹介」も併せて目を通してもらいたい（論文題目からでも、総科でなされている研究の一部を知ることができる）。

尚、この記事は主に学部規定集や59年度のデータに基づいたものであり、今後変更されることもある。また、ここで触れられていない事項については、それぞれ関係ある分野に所属しておられる教官に尋ねてもらいたい。特に新入生にとっては、総科の規定やカリキュラムなどについても不明瞭な点を感じることが多いと思われるが、大学は「学ぶ」姿勢と同時に自ら「問う」姿勢を持たなければ生活しにくい場所であることも知ってほしい。

### 指導教官の決定方法について

指導教官は原則として複数であり、うち1名が主任指導教官（教授、助教授、講師のいずれでも可）となる。副指導教官は主任指導教官と学生の相談の上で決定されるのが普通である。

### 地域文化コース

4年次学年始めにおいて、講座ごとにガイダンスを行い指導教官を決める。

### 社会文化コース

最終年度次当初の聴講手続期間内のなるべく早い時期に、コースに対して各自の希望する指導教官を申し出る。

### 情報行動科学コース

教官は用意した指導内容及び指導学生数の限度の有無を前年度（3年次）の1月中旬に学生に提示し、

学生は希望する指導教官を1月末までにコース委員に届ける。希望学生数に著しいアンバランスが生じる場合には、関係分野の教官と学生の相談の上で指導教官を決める。

### 環境科学コース

原則として主任指導教官1人当りの指導学生数は2名までである。教官は1月末から2月下旬までに専攻分野の概略を公示し、学生は希望する指導教官を3月2日（59年度）までにコース委員に届ける。

### （注）

情報行動科学コースや環境科学コースなどにおいて、指導教官当りの指導学生数に限度がある場合、指導教官決定時期よりも前に、教官と学生の間で著しいアンバランスが生じないように調整されることが多い。

### 中間発表会、論文発表会について

中間発表会を実施していない群や講座でも、セミナー等で代用している場合がある。

### 地域文化コース

中間発表会や論文発表会は講座（英米研究講座はイギリス研究とアメリカ研究に分れる）ごとに行われており、中間発表会は夏休み（日本研究、ヨーロッパ研究など）及び10～11月（日本研究、アメリカ研究、比較文化研究など）に開かれている。アジア研究、イギリス研究は59年度は開いていなかった。論文発表会は口述試験を兼ねることが多く、2月中旬～下旬にかけて行われている（イギリス研究は59年度は1月下旬に行った）。論文発表会の一般学生の傍聴は認められている場合もあるが、これも講座ごとに異なっている。

### 社会文化コース

中間発表会は開かれておらず、論文発表会（口述試験を兼ねる）は2月下旬に行われている。これは社会文化の学生なら傍聴できる。

### 情報行動科学コース

I群、III群は中間発表会をそれぞれ10～12月に開いている。論文発表会（口述試験を兼ねる）は2月下旬にコース全体で行われ、希望する学生は自由に傍聴できる。

### 環境科学コース

中間発表会は開かれておらず、論文発表会（口述試験を兼ねる）は2月下旬にコース全体で行なわれ、希望する学生は自由に傍聴できる。

### 社会文化コース

コースで一括して社会文化図書室に保管しており、閲覧できる。

### 情報行動科学コース

I群、II群は指導教官が保管し、III群は一括保管である。教官の許可を得た上で閲覧できる。

### 環境科学コース

指導教官がそれぞれ保管し、教官の許可を得た上で閲覧できる。

### 論文の保管について

#### 地域文化コース

講座ごとに一括保管する場合や指導教官が保管する場合に分れている。教官の許可を得た上で閲覧できる。

### 最後にひと言

自分の所属しているコースや群のしくみが総科一般のものであると思込んでいたためであろうか、今回の取材を通じて、総科の規定やカリキュラムの細分化を強く感じると同時に、まるで各学部を取材しているような印象をうけた。

（文責 古川哲史）

斬気淳二の飛翔批評バナシー①



「せっかく、はりあわせてできたのに」